

## 私にとっての「研究」とは

### －「研究」を支える人とのつながり－

第3回は、「学会で学ぶということ」について書かせていただきました。最終回となる今回は、『研究』を支える人とのつながり」と題して、教員や研究者としての私を支えてくださった皆様への感謝を綴らせていただきます。

前回までお名前を挙げさせていただいた先生方の他にもたくさんの方々に教員としてお世話になったことは、言うまでもありません。中でも、特にお世話になっているのが、福島市教育委員会の鳴原理先生と、新潟大学の金洋輔先生です。

鳴原先生は10数年前に、今でいうカリキュラム・マネジメントの基となるような年間学習指導計画の構成方法を示唆してくださいました。ある研究会でお目にかかり、私が強引に師事を仰ごうとしたにもかかわらず、とても親切にご教授くださいました。

金先生との出会いは、ちょうど10年前、新潟大学附属新潟小学校で、研究授業を参観させていただいたことです。私と同世代でありながら、豊富な知識と優れた授業力に衝撃を受けました。その時に、現在の学習指導要領「総合的な学習の時間編」に記されている「考えるための技法」につながる指導方法を示唆してくださいました。

お二人との出会いは、研究主任として研究の進め方を迷っていた私に、進むべき大きな光を照らしてくださいました。教員としての研究を大いに支えていただきました。もちろん、このお二人には、現在も何かしら私が道に迷いそうになるたびに、的確なアドバイスをいただいています。

生き方探究の授業研究をする上で、多くのゲストティーチャーにもお世話になりました。私は、ゲストティーチャーとしてお招きする前に、いつも1時間程度その方とじっくり面談させていただくようにしています。こちらの趣旨をお伝えし、その方のお話の中で、何を子どもたちに伝えていただきたいか一緒に検討したいからです。この事前打ち合わせで、私は、それぞれの職の難しさ、面白さはもとより、その方のすばらしい生き方にふれることができました。そ

の結果、授業を構成することがより楽しくなることはもちろん、私の人生自体もたいへん豊かなものとなっていきました。

中でも P&G の榎本千尋さんとは、保護者と担任の関係から、授業を支えてくださるゲストティーチャーと授業者、今では、キャリア教育研究を進める良きアドバイザーと研究者というように、素敵なたつなかりを築かせていただきました。

研究者としての研究を支えていただいた方も、数えきれないぐらいたくさんいます。数々の学会や研究会でご指導いただいた先生方や同じような院生という立場でアドバイスいただいた皆様です。

特に、このキャリア教育学会の皆様には、本当にお世話になりました。

私はキャリア教育学会に入会して、まだ3年です。にもかかわらず、学会でご発表後、質問させていただいた時には、ご自身の研究についてわかりやすく丁寧に教えてくださいました。学会発表を経験する前には、抄録の書き方、口頭発表やポスター発表の良さ、ポスターのレイアウトなど、基本的なことまでも教えてくださいました。そして、私の拙い発表後には、率直なご感想をいただくとともに、多様な角度からご指導いただきました。また、次の研究に向けての課題や目標をお示しくさせていただきました。

何よりこの研究推進委員会の「連載『研究をする』」は、研究初心者の私にとって、研究の進め方や論文の書き方などを学ぶのに、たいへん参考になりました。

全国小学校キャリア教育研究協議会前会長の林久徳先生が、「キャリア教育＝つながり」と常々おっしゃっておられました。私も本当にその通りだと思います。そして、これは研究を進める上でも、何よりも大切なことだと考えます。自分一人だけで研究しているようであっても、多くの方々の支えがあるからこそ、研究を進められるのだと考えます。私が研究を続けていくということは、今後も人とのつながりを広げたり、深めたりしていくということです。ですので、皆様、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

今まで多々偉そうなことを述べてきましたが、教員や研究者としての私があるのは、20年前に「俺の分まで教師を続けろ！」と励ましてくれた親友、谷口

雅紹のおかげです。彼との出会いがなければ、私が教員でいることも、研究に携わることも、こうして拙い文章を執筆することもなかったでしょう。

最後に、今まで支えてくださった皆様と、稚拙なコラムに目を通してくださった皆様、何より空の上から見守ってくれている友に心からお礼を申し上げます。

本当にありがとうございました。

そして、これからも何卒よろしく願いいたします。

(加古川市教育委員会 伊藤良介)